

特集

BSマルチチャンネル放送開始! 放送大学の番組にかける思い

[岡田 光正 副学長] P. 01

[プロデューサー インタビュー] P. 02

おすすめ番組3選 P. 05

学習センターサークル紹介

[茨城学習センター 香り文化サークル] P. 06

研究室だより [広瀬 洋子 教授] P. 07

まなびとめぐる、全国学習センター学生レポート

[奈良学習センター / 鹿児島学習センター] P. 09



特集

BSマルチチャンネル放送開始!

副学長、プロデューサーが語る

放送大学の番組に かける想い

昨秋の「BSマルチチャンネル放送」始動とともに、番組の在り方や制作の取り組み方にも新たな風が吹く放送大学。その現場について、岡田光正副学長と番組制作で陣頭指揮をとるプロデューサーに、日々のミッションや知られざる舞台裏についてお話をいただきました。

BS231チャンネルでチャレンジを

昨年の10月から、BS231チャンネルの放送が始まりました。では、231チャンネルは何を放送するか?

來生学長はVision'17で「二つのチャンネルのうち一つを授業の提供を主目的とするチャンネルとしながら、もう一つのチャンネルを放送大学授業への関心を高め、国民一般の教養の向上にも資するチャンネルとして特徴づけ、学習センター主体の地域情報の発信や、特別番組の充実、広報番組の在り方等について、新たな積極的な工夫を施します」と約束しました。

つまり、これまでの授業番組は232チャンネル、231チャンネルでは授業ではない、別の言い方をすれば大学の単位と関係ない番組にしようということになりました。こ

れは、人生100年時代を迎え、社会人の多様な学び直し、新たなチャレンジを応援したいとの思いからです。

ということでBSキャンパスex特集、学習センター公開講座セレクション、「科学」からの招待状、クロス討論、16番目の授業、スペシャル講演、放送大学アーカイブス・知の扉、全国学習センターめぐり等々、これまでの授業とはかなり異なる番組が始まりました。

でも、誰がこんな番組を企画・提案し、制作するか? みんなタダでも忙しいのに更なる労働強化だ!

しかし、教員の立場からすれば、授業とは違って自分の研究、学問への思い、さらには最先端研究など自由に番組が企画できま

す。また、制作スタッフからすれば、授業という制約のない自由な番組制作ができます。ということで、これまで以上に制作部や放送部の職員と教員とが一体となったチャレンジが始まったと言えます。

新たなBS231チャンネルは送り手にとっても、また見る側にとっても新たなチャレンジの一助となることを期待しております。



岡田 光正 副学長

<学び直しのための新チャンネル>

BS231ch BSキャンパスex ●生涯学習支援番組

<授業科目のチャンネル>

BS232ch BSキャンパスon ●授業番組

前職での報道番組制作の経験から考える、告知番組における「伝え方」とは。放送大学ならではの、放送大学流の「伝え方」とは。情報発信の意味や意義を掘り下げる石井プロデューサーの熱意が見えてきます。

“伝える”ことの責任

放送大学に移籍した当初は考査の部署で、番組内容のチェックを担当していました。事実関係や情報の出所は正しいか、人権を侵害する表現はないか、広告宣伝になっていないか、“日本一”などの絶対的表現の真偽などをチェックして、放送上のリスクを回避させる仕事です。授業番組は4年から6年も放送されるので、フリップに使われるデータなども、できる限り元の情報をたどり、内容や引用年度なども確認します。放送に間違いは許されないし、情報は一過性ではない。“物事を伝える”という原点に関わる重要なポジションで、よい経験になりました。

報道、広報、告知、似て非なる側面とは

報道は、事実を正確に伝えること、迅速であること。報道特集番組では社会的背景も絡んできますから、新人の頃はよく上司に「現象の面白さだけでなく、そこから何が見えてくるのかを考えろ」と言われました。問題提起といった側面もある



ので、答えは番組の中にはなく、視聴者それぞれに導き出してもらうというメッセージ性が強い分、例えば戦争や原爆、大災害のような重い題材では心情的にも苦勞した経験があります。

“伝える”という点では報道と同じですが、広報にはイメージ発信という側面がありますね。例えば番組PRでは興味をもってもらう演出が大切で、極端に言えば“面白そうだ”と感じてもらえば良いという部分は、報道とは違うかもしれません。私の中では、自分が言いたい事を伝えるのが告知で、相手が知りたい事を伝えるのが広報と位置付けています。

今担当している「キャンパスガイド」はマルチチャンネル放送化と同時にスタートした番組で、対象は学外の方です。いわば、広報の位置づけですね。放送大学のことを知ってもらうために必要なターゲットニーズは何なのかを常に意識しています。

「キャンパスガイド」の制作現場で探る今後の展望

放送大学の魅力をどう発信していくということも意識しています。例えば、科目群履修認証制度「エキスパート」を紹介する際には、国際ボランティア・ガイドを養成するプランもあるので、それを来年の東京オリンピック・パラリンピックに結び付けて発信すればまさにタイムリーです。興味のある人にヒットすれば情報拡散も期待できるのではと。他にも「学生課からのお知らせ」のような、職員のメッセージコーナーができないかと、いろいろ考えている毎日です。

既に始めている内容としては、キャンパスプロフィールという先生を紹介するコーナーがあります。放送授業では伝わらない横顔を知ってもらい、それが入学の動機づけになればと。また、全国の学習



「キャンパスガイド」の番組風景

センターやサテライトスペースで開催されている一般向け公開講演会の案内をしたり、とにかく発信していくことが大切です。そして、それをどうやって見てもらうのか、いかに見てもらうのか。「面白かったよ」という声は頂いているので、告知プラス広報の手法で“伝え方”を模索しつつ、開発していくのが課題です。



PROFILE

NHK報道局や地方各局などでディレクター、デスク、プロデューサーを約30年にわたって歴任。2016年、放送大学へ転籍。考査職、編成管理専門職を経て2018年4月より現職。

このページの記事は、
ウェブサイト上では
掲載しておりません。
ご了承ください。

テレビがお茶の間を席捲していた時代の手法から近未来のデジタルコンテンツまでのツールを縦軸に、過去と未来を行き来する柔軟な思考を横軸に、“今”ヒットする番組を探りあてる。吉田プロデューサーのメイキング哲学が冴えます。

ソフトは変われど、 変わらないマインドがある

放送大学が開学した当時、テレビを通した「遠隔教育」というのはある意味、画期的だったのではないのでしょうか。



メディアの発達に伴って(放送大学でも)BSマルチチャンネル化が実現しましたし、2018年12月からは4K・8KのBS放送もスタートしました。反面、テレビがファーストメディアではなくなった今、デジタルに対するリテラシーがあってもなくても多様性を確保し、全方位にコンテンツを提供しなければいけない。メディアが大激変している中、逆に新しいコンテンツが作れる可能性もあるでしょうし、そういう分野を構築していくのも放送大学制作部の仕事だと考えています。けれど、どんなメディアでもアクセスのフックになるのはやっぱり興味や関心という、人々のマインドなんです。これだけは変わらないし、見てもらわないと始まらない。では、どうすれば興味や関心のアンテナに訴えられるのか、見てもらえ

るのか。これはコンテンツメイキングの永遠の課題だと思いますね。

コンテンツを活用する 創意のスピリッツ

前職で長年携わっていた青少年・こども番組の制作セクションは、ドラマやドキュメンタリー、アニメ、人形劇、歌番組、CGといったテレビ的な演出手法をすべて内包していたので、幅広いコンテンツを身につけることができました。また、こどもたちの後ろにいる家族も楽しめるような内容開発という命題がありましたので、ターゲットを意識するという点でも私なりにいい経験でプラスになっています。

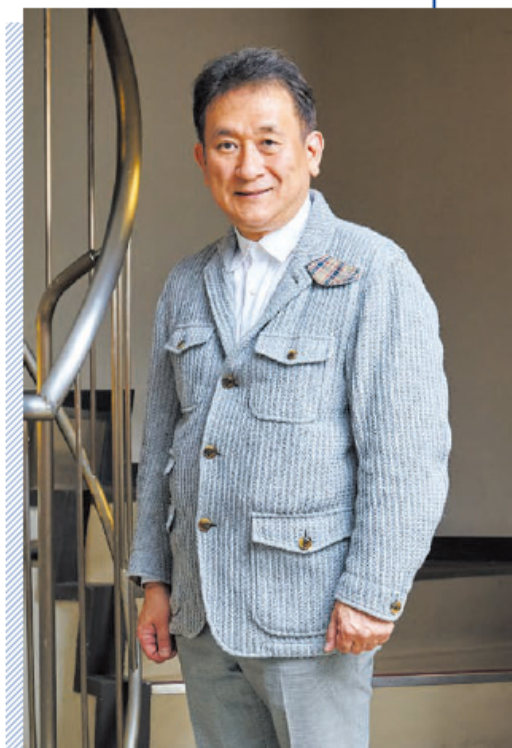
いま手掛けているBS231の番組制作では、ターゲットは変わりましたが「見てもらわないと始まらない」というベースは同じです。年代も多様な学生さんがもっている思考回路に届くよう、アカデミックなアプローチから問いを積み立てる。テーマ設定とわかりやすい構成は必須で、加えてより内容が理解できるように映像表現と字幕情報を工夫したり、映像コンテンツをどう組み合わせ、どう表現すれば響くのかを考えたり。すべては放送大学に触れてもらうためのきっかけ作りですね。一方で、作り手と見る側の思いには微妙な温度差があったりするので、学生の皆さんの声も聞きたいし、聞き取りした内容は今後の番組制作に反映したいと考えています。

メイキングのヒントと流儀

個人的に、年表が好きなんです。今年は何があったか、100年前は何があったか。20年後を予想してみるとか、時空を行ったり来たり。例えば、平成が終わりますよね。平成とはどういう時代だったのか学術

的に迫ったり、平成の正体を探ったりとか。面白い番組になるような気がしませんか？ もう一つ例えば、ゼロがつながる周年企画はブームを生みますよね。年表を眺めていると俯瞰ができ、論点整理ができる。それを基にターゲットに合う文脈を考えたり、表現方法を取捨選択したりしてシナリオを作るといったところでしょうか。

画面の向こうにはたくさんの視聴者がいるので、飽きられず、かつ新鮮に感じてもらえるよう新しいエッセンスを取り入れるアイデアも大切です。冒頭にもお話しましたが、見てもらわないと始まらない。他局と明確に違うクオリティを持つ番組作りのために、日タトライアンドエラーです。



PROFILE

NHKで青少年・こども番組の企画制作を30年手掛けたのち、NHK放送文化研究所でデジタルコンテンツや最新メディア動向の調査研究。2018年7月より現職。

ぜひご覧いただきたい!

おすすめ番組 3選

今回お話を伺ったプロデューサーが、それぞれの視点で制作したおすすめ番組をご紹介します。

石井 直樹
プロデューサー

1 「小学校プログラミング教育(導入編)(仮)」

少子高齢化や人口減少が深刻化する中、IT技術の活用によるさまざまな問題解決や新たなビジネスチャンス台頭の可能性を背景に検討されていたプログラミング教育の必修化。小学校では2020年、中学校では2021年、高等学校では2022年から実施されることが決定しました。文部科学省によると「将来どのような職業に就くとしても、時代を

超えて普遍的に求められる力としての、プログラミング的思考などを育成するもの」とされています。これを受けて、まずは小学校教員の方を対象に、プログラミングの概要や実際の授業に臨むためのレッスンなどを解説。文科系出身の教員の方にも短期間で準備いただけるよう、工夫をこらした編成になっています。



BS231ch

担当教員：中川 一史 教授 番組種別：資格系番組

榎波 由佳子
プロデューサー

2 「博物館資料保存論(’19)」

歴史的にも文化的にも貴重な資料遺産を収蔵し、次世代へ守り伝えていくという重責を担う博物館の知られざるバックヤードにフォーカスした番組です。全国各地の名立たる博物館や美術館、宮内庁書陵部、正倉院などから多くのご厚意とご協力をいただき、特別にロケを敢行。所蔵品保存のための適正な温度・湿度管理、虫害から分析する所

蔵法の開発、回避には限界がある経年劣化対策など、一般には目に触れる機会がない現場に迫りました。高度な技術を要する絵画の修復や公文書の虫食い修復の実態も見どころで、資料保存のために裏方として尽力するスタッフの方々も紹介します。番組として面白く、興味深く楽しめる構成に、ぜひご期待ください。



BS232ch

主任講師：福村 哲也 特任教授、本田 光子 客員教授
コース：人間と文化【専門科目】

吉田 直久
プロデューサー

3 「“縄文”を思索する 考古学×哲学×アート」

今、縄文時代に関心が集まっています。1980年代以降、それまでの縄文時代のイメージを一新するような考古学的発見が続き、日本文化の基層ともいえるこの時代が、これまで考えられた以上に高度で豊かな文化を育んでいたと考えられるようになりました。

番組では、考古学の専門家、哲学者、

「土偶女子」の文筆家、そして縄文文化に深い関心を寄せていた芸術家、岡本太郎の研究者を、歴史学者で放送大学図書館長である近藤成一教授が訪ね、さらにはスタジオでの五人による討論を通して、多様な視点から縄文時代が現代の我々に問いかけるメッセージについて考えます。



BS231ch

出演：近藤 成一 教授、魚住 孝至 教授、他
番組種別：クロス討論

[放送予定]・2月3日(日)20:15～・2月17日(日)6:00～

放送予定は番組表でご確認ください。 <https://bangumi.ouj.ac.jp>



学習センターサークル紹介 | 茨城学習センター

香り文化サークル

今回ご紹介するのは、「香り文化」に関する活動に
メンバーが意欲的に取り組む、その名も「香り文化サークル」です。

茨城学習センターの「香り文化サークル」は、全国でも珍しい「香り文化」をテーマとしたサークルです。今回の取材でその活発な活動内容を知ることができました。

香り文化サークルのはじまりは、顧問の堀口悟客員教授によるゼミにあるそうです。「ゼミが終わっても香り文化との繋がりを持ち続けたい」という学生の願いから6年前に発足しました。

取材当日は、堀口教授による公開講演会「江戸時代初期の香文化」が開催されており、それに合わせて会場である茨城県立図書館に集合したメンバーの皆様にお話をうかがうことができました。

サークルは個人での活動を基本としています。活動テーマは、日本の香り、世界の香り、紅茶や日本茶の香り、香木や練香など人それぞれ。活動成果は学園祭で発表されるほか、卒業研究として取り組んだ先輩もいらしたとのこと。

そして2017年には、水戸史学会の出版物「水戸史学」に、サークル会長と副会長による論文が掲載されるという快挙を成し遂げました。

サークルに入った理由をメンバーに聞

イベントでの風景



江戸の室内通称
投扇興



練香を作っているところ



千波湖の畔には
音楽館が



史跡、弘道館
(正館)



いてみたところ、「ネットでは伝えられない〈香り〉というテーマに惹かれた」「亡くなった妻がサークルで楽しそうにしているのを見て自分もメンバーになった」「茶道をされていて（中には師範という方も）、そこで扱われる香を深く知りたいと思って」「香りという研究テーマに時代を超えた魅力を感じて」と、これまた人それぞれ。

切磋琢磨しながら楽しく活動に取り組むメンバーの皆様の姿が印象に残りました。

第9代水戸藩主、徳川斉昭公は、「一張一弛」の思想に基づき、藩校である弘道館という「学ぶ」施設と、庭園である偕楽園という「楽しむ」施設をひとつのものとして作ったそうです。

弘道館は「学問は一生行うもの」として卒業制度を設けなかったそうですが、その「楽しみながら学び続ける」という生涯学習に通じる心が茨城学習センターに受け継がれ、香り文化サークルの皆さんはそれを強く実践していると感じました。

活動日 第3土曜日13時から
メンバー 12名

※2018年10月現在

ユニバーサルデザインで 多様な人々を支援

PROFILE

神奈川県生まれ。放送大学教授。専門は高等教育における多様な学生への支援・障がい者支援。メディア教育開発センター教授などを経て現職。



障がいのある人もない人も、共に学びやすい場をつくる——。このユニバーサルデザインの考え方が、教育の現場で今、注目を集めています。そこで今回、その研究の第一人者で、テレビ授業科目「情報社会のユニバーサルデザイン（'19）」の主任講師でもある広瀬洋子教授にお話をお聞きしました。

障がい者の方たちが 工夫をしながら、学ぶ姿に感動

私は元々、英国のオックスフォード大学大学院で社会人類学を勉強していました。その後、縁あって1989年に放送大学の関連機関である放送教育開発センターの助手になりました。時の所長で社会学者の加藤秀俊先生から「遠隔教育と障がい者」に関心はないか、と問われました。正直なと

ころ、テレビやラジオを使って行う教育ってどうなんだろう？ 私が英国で受けた教授と学生とが1対1で行う手厚い教授法とは真逆な気がして、最初はかなり懐疑的で戸惑いさえありました。

ところが、放送大学に学ぶ、吉澤さんという全盲の学生さんと出会ったことで、私の考えは大きく変わりました。

そのとき彼は、障がいのある方たち10人にインタビューをして、「障がい者と教育」をテーマに卒論を書こうとしておりました。そこで私も、白杖をもつ彼に付き添い様々な方を訪ね歩くことになったのです。当時、盲聾の大学院生だった、現在東大教授の福島さんもその一人です。それぞれのお話が大変興味深く、人間の可能性について改めて教えられました。そして驚いたことに、全盲の吉澤さんは、パソコンの読み

上げソフトを駆使して、誰にでも読める立派な論文を一人で書き上げてしまったのです。今から30年くらい昔のことです。これはすごい。ICT（情報通信技術）を活用することで、障がいのある方も自分を表現できる、成長することができる。私にとってはまさに覚醒、目から鱗が落ちました。

また、多様なメディアを利用して、好きな時間に自分に合った方法で、学習できる遠隔教育は、多くの障がい者はもとより、ハンディを抱える人々に高等教育を届けられることができると実感。これは、社会人類学的にも、ものすごくエキサイティングな領域になる、そう確信しました。

以来、障がい者支援の進んだ米国や英国、EU諸国などの大学を訪問し、障がいのある方への配慮や授業方法などについて調査を開始。高等教育における障害者支援と、

情報社会のユニバーサルデザインについての実践的研究に進進しました。

そして、その研究成果を、論文や映像コンテンツにして発表。放送大学のTV授業をはじめ、様々な研修会や政府関係の研究會などでも紹介してきました。

「読む・聞く・見る」の 多様な方法を提示する

ところで、ユニバーサルデザインとは、何かご存知ですか。これは、年齢・性別・能力・環境にかかわらず、できるだけ多くの人々が使えるよう、最初から考慮して、まち、もの、情報、サービスをデザインする、そのプロセスと成果のことです。不便を取り除くという「バリアフリー」とは違い、最初から多様な人があることを前提にデザインする考え方ですね。

そして私の研究テーマである、情報社会のユニバーサルデザイン——とは、視覚障がい者も、聴覚障がい者も、外国人も、誰もが、社会の中で重要な情報にちゃんとアクセスでき、十分に活用できることを目指すことです。放送大学においても実践的な取り組みを進めてきました。

多様なメディアを介して教育を届けている放送大学。やる気さえあれば、その音声、テキストをオルタナティブな教材に変換して提供する事が可能です。障がいのある学生の在籍割合が大きい放送大学でこそ、取り組むべき仕事だと思いましたね。

まずは視覚障がい者に向けて、印刷教材

のデジタル化を行いました。ボランティアの方々が手弁当で続けていたデジタル化や点訳者につなげるノウハウを、2006年に大学側が継承する形で実現。現在、デジタルデータを必要な学生には、CD-ROMで渡し、彼らはそれをパソコンの読み上げソフトや、点字に変換することで読むことができます。また、大学ウェブサイト「視覚障がいの方」向けの特設サイトを設けております。

一方、聴覚障がい者のために、本学のテレビ授業の65.2%が字幕化されています。そこで、ラジオ授業に関しても、私たちは、音声の見える化に挑戦。2012年より、インターネット配信によるラジオ授業に字幕と静止画を付与したコンテンツを制作し、実験的な配信をスタートさせました。これは大変好評で、「初めてラジオ授業を受けることができた。」と、聴覚障がい者の方から喜びの声をいただきました。

さらに、音声認識システムを用いて、放送大学の講義の音声をテキスト化するという研究開発も、京都大学と共同で進めてきました。音声認識技術は日進月歩で進み、人手と費用がかかる文字起こし作業が以前より効率的に行えるようになり、オンライン授業の字幕作成にも活用されています。

世界一アクセシブルな 授業を目指す

こうしてICT活用は、障がい者の学習環境を飛躍的に向上させました。でも、これは単に少数の障がい者のためだけではなく、世界の多様な人たちに教育を届けることに

ラジオ特別講座 「メディアと与謝野晶子」の画面 (2019年1月現在字幕実験配信中)



「システムWAKABA」→「放送授業のインターネット配信」でもご覧いただけます。

もつながるのです。テキストデータ（字幕）を自動翻訳すれば多言語化が可能で、中国語にも、スワヒリ語にもなる。インターネットに載せれば、国内の留学生にも、モンゴル草原の少年少女にも届くからです。

皆さまも、放送大学のアクセシビリティの高い授業に参加しませんか。約300科目もの講義がテレビやラジオ、スマートフォンやタブレットで視聴できます。また、全国の高等教育機関397校と単位互換協定を結んでおりますので、障がいのある人もない人も、この制度をぜひ活用していただければと思います。

放送大学ほど高品質な映像と音声の教育コンテンツをもっている高等教育機関は、世界広しといえども他に類を見ません。このメディア教材をユニバーサルデザインすれば、世界一アクセシブルな遠隔高等教育機関として世界に発信することも可能です。だからこそ、本気を出して、世界の多様な人たちに教育を届けていく。それが私の夢なのです。

Information | お知らせ

字幕・静止画付きの、ラジオ授業（インターネット配信）

2016年施行の「障害者差別解消法」により、放送大学は障がい学生への「合理的な配慮」が義務づけられました。そこで、聴覚障がい者に対しての情報保障として、字幕付きのラジオ講義を実験的に配信。本学の学生向けサイトから、合計9科目視聴いただけます。音声だけでは分かりづらい漢字や内容理解の助けにもなります。https://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/internet_ra_jimaku.html



まなびとめぐる 全国学習センター 学生レポート

放送大学のイメージキャラクター
まなびが全国の
学習センターにお邪魔し、
学生生活の一部を
見せてもらいました。



三野 博司 所長

NARA

奈良
学習センター



学生リポーター 小西 雅子さん

2005年4月に入学してから放送大学での学びは生活の一部となり、仕事、子育てとともに充実した日々を送っています。奈良学習センターは視聴学習・図書室からの眺めも美しいです。



01

奈良学習センターは、奈良女子大学コラボレーションセンター3階にあります。世界遺産に登録された東大寺や興福寺なども徒歩圏内にあり、古都奈良の文化財を満喫できる静かな環境に立地しています。



02

視聴学習・図書室



03

奈良公園



学生
研修旅行

04

今年は、(株)ダイセル姫路製造所網干工場、揖保乃糸資料館そうめんの里、うすくち龍野醤油資料館を訪れました。



H28-2

東大寺周辺



H29-2

平城宮跡
大極殿



H30-1

平城宮跡
東院庭園

05

世界遺産である東大寺周辺や平城宮跡をめぐる授業は、全国から受講者の申込が多い人気の面接授業です。



住吉 文夫 所長

放送大学イメージキャラクター
まなびー



まなびーは2008年9月に生まれた放送大学のイメージキャラクターです。「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩をイメージしています。命名の由来は、放送大学で学び、未来への夢を広げる場。「ピー」は鳥の鳴き声、平和のピース。キャラクターデザインは、映画『この世界の片隅に』の原作者である漫画家・こうの史代氏（2001年放送大学卒業）です。

KAGOSHIMA

鹿児島

学習センター



学生リポーター 吉留 郁美さん

日本の文学作品を歌にして演奏する音楽活動をしています。それに役立つ知識を得るために編入学しました。学士を取得してアーティストビザを取り、世界中で演奏するのが目標です。



鹿児島学習センターは、鹿児島市役所のすぐ近く、磯街道（国道10号線）の鶴丸城址を目近に望む「かごしま県民交流センター（西棟4階）」にあります。



02 鹿児島大学の練習船を利用して開催される1泊2日の鹿児島湾洋上実習は、全国各地から受講者が訪れる人気の面接授業です。



桜島とまなびー



04 図書・視聴学習室には、鹿児島関係の図書コーナーもあります。



05 今年は鹿児島県立農業大学校と坊津歴史資料センター・輝津館を訪れました。



06 鹿児島学習センターから徒歩10分のところに2018年大河ドラマ「西郷どん」の主人公西郷隆盛の銅像があります。西郷どん大河ドラマ館をはじめ、薩摩維新ふさと博2018など鹿児島県内各地で明治維新150年を記念したイベントが開催されています。



総務課

「名誉教授称号授与式」が挙行されました

7月3日(火)特別応接室において、昨年度3月末に退任された宮本みち子前副学長兼教授、高橋和夫前教授、宮下志朗前特任教授、内堀基光前教授に対し、来生新学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。今回の称号授与により、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから、放送大学名誉教授の称号を授与された方は42名になりました。



後列左から 松川誠司事務局長、近藤智嗣オンライン教育センター長、岩永雅也副学長、岡田光正副学長、池田龍彦副学長、近藤成一附属図書館長
前列左から 内堀基光名誉教授、来生新学長、宮本みち子名誉教授、宮下志朗名誉教授

総務課

2018(平成30)年度学位記授与式について

2018(平成30)年度の学位記授与式の日程が以下のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

日時 2019年3月23日(土)午前11時00分から **会場** NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

ON AIR はインターネットでもご覧いただけます
<https://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/onair.html>



編集後記

放送大学では2018年の10月から、テレビにおいてBS2チャンネル放送を開始しました。BSキャンパスonでは従来通りの講義番組を提供して、BSキャンパスexでは、学生以外の方も学びの機会を得られる生涯学習支援の番組を展開しております。単純に考えると番組が倍になったわけですから、制作部・放送部の皆さんは大活躍中です。そこで、今回のONAIRでは、放送大学番組制作の舞台裏を特集いたしました。

周知の通り、ONAIRはNo.126より、紙媒体からネット展開をするシステムに変わりました。放送大学の基盤をなす全国の学習センターを結ぶ役割は決して変わりませんが、形態は時間の流れに対応して変化しています。放送大学は、BS2チャンネル化と前後してYouTubeチャンネルもスタートさせました。近い将来ONAIRも動画形式に変貌する日が来るのかも知れません。(編集委員・石崎克也)

学内広報委員会(2018年度)

委員長	教授	山田 知子
委員	教授	大曾根 寛
	教授	苑 復傑
	教授	原田 順子
	教授	島内 裕子
	教授	辰己 丈夫
	教授	石崎 克也
オブザーバー	副学長	池田 龍彦
編集事務担当		総務部広報課

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp